

ドーリック弦楽四重奏団

2019年10月31日(木)19時

紀尾井ホール

ハイドン: 弦楽四重奏曲第38番変ホ長調 op.33-2, Hob.III:38「冗談」

ブリテン: 弦楽四重奏曲第3番 op.94

ベートーヴェン: 弦楽四重奏曲第13番変ロ長調 op.130(大フーガ付き)

満ちています。清澄かつ明確な意図を持った音楽です。この作品にみる多様性、そして最終楽章のユーモアのセンスには驚かされます。

ブリテンの弦楽四重奏第3番は、20世紀に書かれた弦楽四重奏曲の中にあつてとても力のある、それでいて一人一人の心に響く作品です。ブリテンは、驚くべきテクスチャーと新たな音色をこの作品で生

み出しました。時には、楽器を減らし、密度の低い、孤独な雰囲気を書かせます。感情の奥行きには特筆すべきものがありますが、最高点に達する最終楽章(第5楽章)のパスサカリアはブリテンがその生涯の最後に書いた音楽です。聴く者をどこか遠くへ、天上の世界へと誘うかのようです。この世を超えた世界を垣間見る思いにさせる音楽なのです。

ベートーヴェンの作品130は本当に急進的な作品です! 楽章が変わる度にそのコントラストの見事さにただ驚かされません。これは人々がそれまで想像だにできなかった新しい弦楽四重奏の形式に則って書かれています。他に類を見ない美しい緩楽章、カヴァティーナを含む組曲のような5つの楽章と、当時と変わらず今でも衝撃的な大フーガで構成されています。これはまさにベートーヴェンの外向性と型破りぶりを示すものです。

弦楽四重奏を演奏するうえで、心にとめていることはなんですか?

これまでに作曲された最高の音楽作品の中には弦楽四重奏のために書かれた音楽が数多くあります。これらの作品群を学び、演奏することは人生をかけるに値する素晴らしいことだ、と考えています。

では、弦楽四重奏の魅力とはズバリなんでしょう?

弦楽四重奏は、まさに音楽づくりにおける完璧なサイズの編成です。音楽の道を歩む中で、私たちに指示をする指揮者はいませんが、それぞれが全責任を負います。さらに数字の4は理想的な数字です。私たちは4人で作品について話し合います。音楽的な会話を重ねていくことでそれぞれの旋律の性格付けをし、それぞれのパートを合わせていくのです。ピアニストならこれらをすべて一人でやらなくてはなりません。4人の異なる音楽的な個性の結婚、まさに理想的な形です!

紀尾井ホールで演奏するプログラムについて教えてください。

この3曲はまさに完璧なまでの傑作です。ハイドンの想像力とその音楽に見ることのできる幅広い個性は限りない魅力に



料金 S席 6,500円 A席 3,500円
U29 A席 2,000円

紀尾井ホールウェブチケット
<http://www.kioi-hall.or.jp/>

紀尾井ホールチケットセンター
03-3237-0061(10時~18時/日・祝休)

主催 公益財団法人 日本製鉄文化財団
後援 プリティッシュ・カウンシル



お客様へメッセージをお願いします。

日本で再び演奏できることに今からワクワクしています。聴衆の皆様にはコンサートで素晴らしい時間をお過ごしいただきたいですね。弦楽四重奏曲を通して、心躍る、鮮やかな旅路へと皆様を誘いたいと思います。皆様には深い感情を体験していただくだけでなく、音楽の持つ親密性とドラマを共に体験していただけたらと思っています。

クアルテットの饗宴2019